

地域は生きる学びの場

～みんなが笑顔でつながろう～

江津市立市山公民館

1 市山公民館の概要

江津市桜江町市山地区は中国一の大川「江の川」の支流「八戸川」沿いに位置し、川を挟んだ大きい3つの集落、5つの自治会で形成されている。世帯数315戸、人口797人、高齢化率32.75%と住民の3人に1人は65歳以上となっている。少子化のため12年前に小学校が統合され、その後施設を「市山生涯学習センター」として活用、公民館としても地域活動の拠点となっている。また、共に非常勤の館長、主事各1名体制のため町内5つの公民館が「さくらえプレーパーク」などを合同事業として行うなど連携して活動している。

2 事業の概要

(1) 実証事業のねらい

ア 長期的展望

子どもたちの郷土への愛着を育み、いずれ故郷で暮らしたいと思えるような活動を展開する。

イ 中期的展望

大人が子どもたちの活動に関わることで、地元のよさを再発見し、これからの地域のあり方を自分のこととして考えるように働きかける。

ウ 短期的展望

耕作放棄地を増やさないため、高齢者が元気で楽しみをもって生産活動できるよう支援していく。

(2) 具体的な取組

ア 子どもたちの体験活動

「ふりきゅうクラブ」(学校振替休日支援)

遊休農地を利用した農業体験。また、それを利用した調理実習を行う。高齢者の経験や知識をもって、子どもたちに伝えることで世代間の交流も行う。今年度は作物栽培だけでなく、販売体験も行う

(ア) 5月 さつまいもの苗植え

〈参加者〉小学生 22名 指導者1名 支援者6名



苗の植え方を教わる



土の感触を確かめて

(イ) 8月 夏休み教室（生き物調査）

〈参加者〉小学生 9名 指導者3名 支援者4名



※希少生物の観察することで、環境問題への関心も得られた。
終了後は、お楽しみの流しそうめん交流。

(ウ) 9月 畑の草取り（オリジナルカレー作り）

〈参加者〉小学生 16名 指導者1名 支援者4名



※班ごとに予算の中で計画を立て、買い物、調理を行う。
責任を与えたことで、積極的に取り組むことができた。

(エ) 11月 サンプコごうつ見学

〈参加者〉小学生 16名 指導者3名 支援者3名



サンプコごうつ見学



ピーマンの値段づけ

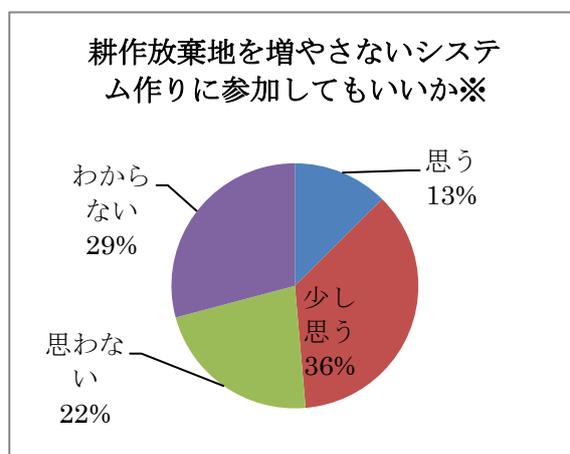
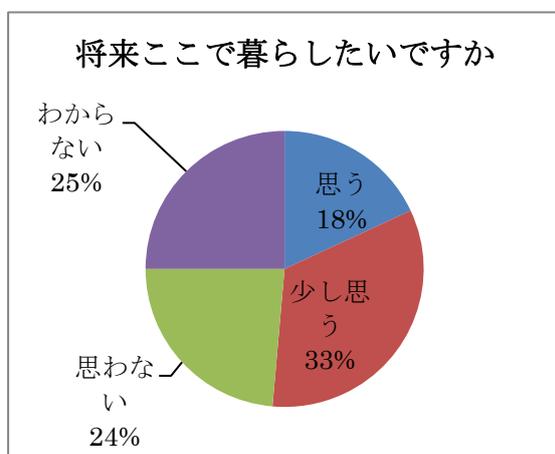
※農林水産物直売所を訪れ、江津の特産品を見学。

※ピーマンの袋詰めから値段付、店頭へ出すまで体験した。

イ 中学生への意識調査

平成18年度より行ってきた小学生の体験教室や地域行事を通じて、子どもたちの郷土への意識は変わったか、愛着がわいたのか、アンケート調査を行った。耕作放棄地の活用についても聞いてみた。

桜江中学校 全校生徒74名中 回答 72名



※意見：地域活性化、または地域の人やる気を起こすような企画。学校行事としてみんなと一緒に参加する。

特産品を作ってみよう～ダッシュ村的なもの。

ウ 野菜販売所の運営

8月に仮設販売を行い、9月に公民館運営委員会を中心とした有志で団体「まごころ市山」を設立。ふりきゅうクラブの農業体験の支

援活動と特産野菜の販売を行う。今年度は4回（8月、10月、12月、2月）テントでの地元野菜の販売「まごころ市」を行う。また、加工品の試作にも取り組み始めた。



8月園児もお買いもの



10月小学生もお手伝い



だいだいの砂糖漬け試作づくり



〈試作品〉
ごぼう茶も
試作中

3 事業の成果と課題

結成した「まごころ市山」は、子どもの農業体験や調理実習だけでなく、「野菜販売所」の運営や市の産直市「サンピコごうつ」への登録を行い、一定の目標を果たすことができた。農業から食育を中心とした活動にしたことで、今まで公民館に関わりの少なかった方々との連携ができ、その後の活動にもつながっている。

ただし、まだ保護者世代の参加が少なく、小学校の家庭教育講演会に際し、活動パネルを展示して保護者へ周知するなど啓発していきたい。

4 今後の方向性

今年度行った中学生へのアンケート調査の結果を考慮し、来年度以降の計画に反映させたい。保護者世代の参画を促すための取組にも力を入れていき、今後取り組む「地域コミュニティ推進事業」へ、スムーズな移行ができるよう活動を確立していきたい。